お茶の水の子

No.4
令和6年6月28日
千代田区立お茶の水小学校
校　長　　伊　藤　　栄　司

復興小学校

校長 伊藤 栄司

6月1日に開催した「お茶の水小学校・幼稚園　新校園舎落成、開校 30 周年記念式典」には、広い体育館がいっぱいになるほど大勢の方にご参会いただき誠にありがとうございました。本校園の歴史の重みや期待の大きさを強く感じる1日となりました。

また、「マーチングや太鼓の演奏が素晴らしかった。」「園児がよく頑張っていた。」「6年生の代表の挨拶がとても立派だった。」等、たくさんのお褒めの言葉をいただき、子どもたちの自信につながりました。ご参会くださった皆様、本当にありがとうございました。

関東大震災からの復興

新校舎を建てるときにデザインの参考にしたのが、復興小学校（錦華小学校）です。右の写真のように錦華通りに面し、美しいカーブを描いているのが特徴です。復興とは、関東大震災（1923 年）からの復興を意味しています。

震災に伴う火災被害は木造が主流だった小学校にも甚大に被害を及ぼし、東京市（当時）の公立小学校 196 校中 117 校が焼失してしまいました。

子供の王国

震災の被害を受けて、校舎は耐震耐火構造の鉄筋コンクリート造で再建されました。また、単に耐震・耐火構造にするだけではなく電気ガス水道の近代設備を備える等、当時の教育課題であった普通教室不足解消や特別教室、衛生設備の設置、学校施設の地域開放等学校教育の多様なニーズを反映させた設計になっていました。資料には、シャワーバス室、作法室、校内神社等、今では信じられないような新旧の教育観がまじりあった設備が備わっていました。※

子ども中心の考え方は、東京市建築局の小茂田甲午郎（こもだこうごろう）学校建築掛長の考え方が大きく影響していて、「教室も実験室も運動場も全体が凡そ一体となって子供の王国を形造っていなければならない」と述べています。この考え方は当時アメリカの教育界を席巻していた「新教育」と呼ばれる児童中心の教育思想がもとになっています。新しい考え方のもと、新しい学校を造っていこうとする熱意が伝わります。

地域の支援と利用

復興には莫大な費用が掛かるため、地域の方々が校地の取得・確定に尽力したり、保護者や町会等が中心となって復興後援会を結成したりして支えていました。通学区域の町会ごとに代表者を決め、町会費と同時に集金する方法がとられ多額の寄付金が集まっています。また、集まったお金は購買委員会が中心になって、購入備品を選定し購入が進められました。顕微鏡、活動写真機、地球儀など授業で使う備品のほかにも地域社会の学校利用を想定した備品の購入もあったようです。ちなみに、現在、多目的ホールに置かれている STEINWAY＆SONS 社のピアノもこの時、復興後援会から寄贈されたものの一つです。

大きな期待

関東大震災という未曽有の被害から、1日も早く立ち直ろうとする当時の人々の熱い思いとともに、学校を地域の中心に据え、皆で大切にしていこうとする気持ちが100年も前から続いていることに大変驚きます。これからも50年、100年と多くの皆様に愛され大切にされる学校をめざし、日々の教育活動をさらに充実させていきます。

※「関東大震災と復興小学校」小林正泰著　勁草書房